

## 山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	MRI を用いた手根管症候群の新規診断法および重症度評価法の開発と検討		
② 実施予定期間	実施許可日 から 2030年3月31日		
③ 対象患者	対象期間中に当院整形外科を受診し、手関節 MRI と電気生理学的検査の両方を実施された手根管症候群の患者さん		
④ 対象期間	2015年4月1日 から 2025年3月31日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	整形外科		
⑦ 研究責任者	氏名	油形 公則	所属 整形外科
⑧ 使用する情報等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常診療の記録から収集する項目：識別コード、手根管症候群と診断された際の年齢、生年月、性別、入院・外来の別、身長、体重、原疾患、合併症、既往歴、現病歴、前治療、電気生理学的検査、画像データ (MRI)</li> <li>・ 本研究で検討する項目：MRI画像での筋群のSIR</li> </ul>		
⑨ 研究の概要	<p>手根管症候群は手指のしびれや親指の付け根の筋肉である母指球筋の萎縮を来す疾患で、しばしば罹患患者さんの生活の質を低下させます。電気生理学的検査での診断が一般的ですが、侵襲的な検査であり、かつ検査機器がMRIほど普及していないことが欠点です。</p> <p>近年、手根管症候群に対するMRIの有用性が注目されており、脂肪組織の信号を抑制し、その他の組織の信号を強調するMRI STIR (Short TI Inversion Recovery) 画像は、病変の検出を容易にすることを目的とした撮像方法で、日常診療にも広く用いられており、特に信号強度を定量的に評価する指標のひとつであるSIR (Signal intensity ratio) は、手根管症候群に伴い変性した母指球筋の変化を簡便に検出できる可能性があります。具体的にはMRI画像を用いて短母指外転筋、方形回内筋、小指外転筋の信号強度を計測ツール (ShadeQuest/ViewR; 富士フィルム) で測定し、信号強度のSIR(短母指外転筋/方形回内筋、短母指外転筋/小指外転筋)の計測を行います。</p> <p>本研究は、手根管症候群の非侵襲的検査としての新たな指標確立につなげるために、手根管症候群で障害される親指を外側に開く働きをする短母指外転筋に対して、非障害筋である前腕の回転に関わる方形回内筋 (正中神経支配ですが、手根管よりも中枢にあります)、または小指外転筋 (尺</p>		

	<p>骨神経支配)とのSIRが手根管症候群の診断や重症度評価に有用であるかを検討することを目的としています。</p> <p>本研究では、診療録の情報や画像および「手関節MRIを使用した止血バンド圧迫前後/肢位による神経血管の状態変化の検討」という多施設共同研究において、研究の参加に同意されたボランティアの方から収集した情報や画像を対照群の情報として収集し、2つの群の比較を行います。</p>		
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2026年3月24日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	<p>研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。</p> <p>詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。</p>		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	整形外科の奨学寄付金を用いて行います。		
⑯ 利益相反	ありません		
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 整形外科 担当者：油形公則		
	電話	0836-22-2266	FAX 0836-22-2267

## 「手関節MRIを使用した止血バンド圧迫前後／肢位による神経血管の状態変化の検討：多施設研究」の研究に参加されたボランティアの方へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて「手関節MRIを使用した止血バンド圧迫前後／肢位による神経血管の状態変化の検討：多施設研究」の研究に参加されたボランティアの方もしくはその代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも上記のボランティアの方に不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	MRI を用いた手根管症候群の新規診断法および重症度評価法の開発と検討		
② 実施予定期間	実施許可日 から 2030年3月31日		
③ 対象者	対象期間中に実施された、「手関節MRIを使用した止血バンド圧迫前後／肢位による神経血管の状態変化の検討：多施設研究」の研究に参加されたボランティアの方		
④ 対象期間	2021年6月23日 から 2024年2月29日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	整形外科		
⑦ 研究責任者	氏名	油形 公則	所属 整形外科
⑧ 使用する情報等	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究対象者の背景情報から収集する項目：年齢、性別、身長、体重、画像データ (MRI)</li> <li>本研究で検討する項目：MRI画像での筋群のSIR</li> </ul>		
⑨ 研究の概要	<p>手根管症候群は手指のしびれや親指の付け根の筋肉である母指球筋の萎縮を来す疾患で、しばしば罹患患者さんの生活の質を低下させます。電気生理学的検査での診断が一般的ですが、侵襲的な検査であり、かつ検査機器がMRIほど普及していないことが欠点です。</p> <p>近年、手根管症候群に対するMRIの有用性が注目されており、脂肪組織の信号を抑制し、その他の組織の信号を強調するMRI STIR (Short TI Inversion Recovery) 画像は、病変の検出を容易にすることを目的とした撮像方法で、日常診療にも広く用いられており、特に信号強度を定量的に評価する指標のひとつであるSIR (Signal intensity ratio) は、手根管症候群に伴い変性した母指球筋の変化を簡便に検出できる可能性があります。具体的にはMRI画像を用いて短母指外転筋、方形回内筋、小指外転筋の信号強度を計測ツール (ShadeQuest/ViewR; 富士フィルム) で測定</p>		

	<p>し、信号強度のSIR(短母指外転筋/方形回内筋、短母指外転筋/小指外転筋)の計測を行います。</p> <p>本研究は、手根管症候群の非侵襲的検査としての新たな指標確立につなげるために、手根管症候群で障害される親指を外側に開く働きをする短母指外転筋に対して、非障害筋である前腕の回転に関わる方形回内筋（正中神経支配ですが、手根管よりも中枢にあります）、または小指外転筋（尺骨神経支配）とのSIRが手根管症候群の診断や重症度評価に有用であるかを検討することを目的としています。本研究では手根管症候群患者さんの診療記録の情報や画像および「手関節MRIを使用した止血バンド圧迫前後/肢位による神経血管の状態変化の検討：多施設研究」で収集した情報や画像を対照群の情報として収集し、2つの群の比較を行います。</p>		
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2026年3月24日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	整形外科の奨学寄付金を用いて行います。		
⑯ 利益相反	ありません		
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 整形外科 担当者：油形公則		
	電話	0836-22-2266	FAX 0836-22-2267